

【戸塚区】平成 28 年第 3 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	平成 28 年 9 月 7 日(水) 14 時 00 分 ～ 15 時 30 分
場 所	戸塚区総合庁舎 9 階特別会議室
出席者	<p>【座 長】伏見幸枝議員</p> <p>【議 員：5 名】岩崎ひろし議員、坂本勝司議員、鈴木太郎議員 中島光徳議員、山浦英太議員</p> <p>【戸塚区：23 名】田雑由紀乃区長、鈴木栄副区長、塚本光俊福祉保健センター長、鈴木裕子福祉保健センター担当部長、橋本孝二土木事務所長、坂本浩戸塚消防署長 ほかに関係職員</p>
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 27 年度個性ある区づくり推進費 戸塚区決算状況 ・平成 28 年度個性ある区づくり推進費 戸塚区執行状況 ・平成 29 年度個性ある区づくり推進費 戸塚区事業の取組方針
発 言 の 要 旨	<p>鈴木議員：P 30「都市計画マスタープラン・区プランの改定」について、改定までのスケジュールは、どのように進めていくのか。</p> <p>寒河江区政推進課長：戸塚区の区プランの改定スケジュールは、平成 29 年度に改定する予定。現在、12 月に予定している素案の説明会と市民意見募集に向けた庁内調整を行っている。市民意見募集等の結果を反映させて原案を作成する予定。素案がまとまった段階で、内容を戸塚区選出の市議員へ示したい。29 年度は、28 年度の意見募集の結果を踏まえて庁内調整をして原案として公表し意見募集を行う。意見募集の結果を反映させて改定素案を作成し、さらに庁内調整を行い、改定案を確定させる。改定案を都市計画審議会に付して 29 年度末に確定し、告示していくことになる。</p> <p>鈴木議員：区プラン策定時の平成 13 年から環境も変わっているので、将来を見据えてつくりたいといけないと思う。東戸塚駅周辺のまちづくりでは、東戸塚駅の混雑緩和について横浜市と J R 東日本が調査した結果、</p>

大船方面の階段の設置を含めて検討したが費用対効果の点から見送ることになったと聞いている。また、民間が主体となって検討している将来へ向けたまちづくりと開発動向を踏まえて混雑緩和に向けた駅の抜本的な改良を検討することが必要ではないかとの意見もあると聞いている。まちづくり協議会で積み上げている案を行政の実情に合わせて組み込んで、12月の区プランの素案作成までにしっかりと吟味して素案に反映してもらいたい。

横浜環状道路南線、湘南藤沢バイパスの田谷インター周辺のまちづくりについては、具体的な方向性がないといけないと思う。区境・市境のところなのでやりづらいと思うが、せっかく基盤ができて周りがそれに連なって整備されないという状況にならないようにしっかりやっていただきたい。平成30年度に栄区が区プランを改定する予定と聞いているので、一緒になって考えてもらいたい。

寒河江区政推進課長：東戸塚駅の大船方面の階段の設置については、大変難しい課題もあるが、断念せずに検討を続けていると聞いている。東戸塚周辺については、市のマスタープランにも鉄道駅を中心としたコンパクトなまちづくりを都市づくりとするとされているので、こういった上位目標も踏まえて記載内容を整えていきたいと考えている。

鈴木議員：東戸塚駅の混雑緩和については、現実的な対応を考えてほしい。
次に、全国都市緑化フェアについてだが、区としての連携事業の内容はどのようなものか。

寒河江区政推進課長：緑化フェアについての区の連携事業としては、区内各課の取組で検討を進めている。ストリートミュージシャンライブやハンギングバスケット教室、保育園・幼稚園でオリジナルガーデンの設置、公園愛護会を通じて展示会場で花苗を配布することなどを検討している。

鈴木議員：より魅力的で賑わいにつながるものとなるよう、区ならではの工夫をお願いしたい。

岩崎議員：P22「『災害に強いまちとつか』に向けた防災・減災強化事業」

について、台風9号の大雨の時にがけ崩れの危険がある下倉田と小雀に避難勧告が出されたが、住民の方から、「大雨の音でなにを言っていたか分からないが消防車が何か言いに来てくれた。あれはなんだったのですか。」という声が私のところに届いている。声を寄せた人は、避難勧告が出される危ないところに住んでいることが十分理解できていないのではないか。啓発という活動は大事なことなのだが、なかなか必要なところに情報が届かない。このことについてどのように考えているか。

町内会単位でやっている防災訓練に出るが、出ている人は限られている。この状態を繰り返しているだけでは、地域に情報を伝えることはできない。土砂災害・浸水等対策の意識啓発は、どういう内容と方法で行おうとしているのか。防災対策の上では、防災情報を受ける側の区民の下地を作っておかなければ、いろいろ努力しても効果がない。啓発について考えていることを教えてほしい。

福島総務課長：土砂災害警戒情報とともに即時に避難勧告を出す地域は、区内に2か所あり、4つの崖がある。昨年11月に115世帯を対象にアンケートを実施した。その結果、土砂災害警戒警報発表と同時に避難勧告を発令する地域であることを知らなかった方が3割で、7割の方は知っていた。実際に避難行動をとったかどうかという質問をしたところ、避難しなかった方は7割ほどおられた。避難しなかった理由として、「この程度の雨では崩れたことがない。」「自宅への被害はなさそうだ。」「近所の人たちも避難していない。」などの声があった。このアンケートの結果を踏まえて、2月に地域の方へフィードバックをした。65名ほどの地域の方が参加して、質疑応答などをした。特に、崖地の専門家を呼んで、危険であることを認識していただくような啓発も行った。今年になって出水期の前の6月下旬から7月上旬にかけて注意喚起として各世帯にお知らせを配布し、各マップや避難の情報を周知した。崖地に関しては、アンケートの厳しい結果を解消するよう、今後様々な方法で啓発をしていきたい。防災・区民マップと土砂災害ハザードマップ、ミニマップは戸塚区内の全戸に配布している。特に土砂災害については、北部と南部の2か所に分けて全戸配布し、避難勧告の対象地域の方にも改めて配布している。

岩崎議員：区民に防災意識を持ってもらい、防災情報を正しく届ける仕事

は大事で大変だと思うが、もし何かあった時には命を守れるよう引き続き努力をしてほしい。

中島議員：この間の台風で避難勧告が出た地域へ行った。個別訪問をしたところ避難勧告が出ている情報が伝わっていなかった。情報が伝わっているのか実際に調査することも大事だと思う。土砂災害の説明会には多くの地域の方が参加していたのでだいぶ浸透してきていると思うが、自分が住んでいる地域がそういう地域であるという認識がすべての人に広まっていない。絶対に一人の命も落とすことのないよう安全安心なまちづくりをする上では、情報の伝達と自分が住んでいる地域の危険を認識する啓発に取り組んでほしい。

P17「区内女子スポーツ普及・応援事業」について、サッカーであればサッカーの関係団体へ案内するのは当然だが、戸塚区のサッカー協会と学校がやっているサッカーチームがあるのでそれぞれに案内を出してほしい。

戸塚区の都市計画マスタープランの改定については、東戸塚駅のホームの混雑の問題では、区民が危険な思いをしているのは見過ごすことはできないし、区民からも東戸塚駅の安全対策はぜひやってほしいという意見も多い。ホームドアや階段の設置などいろいろなハード面の安全対策があるが、プランを立てるときに大事なポイントとして、今すぐに手を打つべき対策と中長期的な対策との両面から、しっかり段階を踏んだプランを立てていただきたい。

山浦議員：P8「子どもを取り巻く虐待予防環境づくり事業」について、虐待等相談の充実で相談件数が昨年度349件とあるが、直近3年間の比較はどうなっているのか。また、どのような人員体制、相談体制の強化をしてきているのか。子どもの貧困問題は横浜市長が力を入れてきているところだが、子どもの貧困に関して区民から相談があった場合、どこが窓口となるのか。相談された内容をどのように市政に反映させようとしているのか。

P9「戸塚区高齢者見守りネットワーク事業」について、地域の住民

からどのくらい協力を得られているのか、民間事業者の数を教えてほしい。

岩井こども家庭支援課長：虐待等相談の充実は、女性相談の事業で、25年度で341件、26年度で372件とほぼ横ばいとなっている。相談体制の強化については、この相談業務をもっぱらとしている嘱託員は一人配置されているが、緊急対応などで外に出かけることがあると窓口に来られた方の相談対応ができないため、ほかに相談できる職員としてアルバイトを雇用して常に相談を受けられるようにしている。嘱託員は、こども青少年局の雇用で配置されているので、増員を局へ要求していくことを検討している。アルバイトについては引き続き現状のまま進めていきたいと考えている。

子どもの貧困相談の窓口については、こども青少年局では企画調整課で現在所管している。区の中では、子どもの貧困ということになると具体的にここだということはなく、生活支援課やこども家庭支援課などがそれぞれ連携を持って担当しているところだ。

上島高齢・障害支援課長：見守りネットの中での地域住民については、具体的には自治会町内会の皆さまや民生委員の方などを指しているのですが、具体的に何人という形では申し上げにくいですが、かなり多くの方にご協力をいただいている。民間事業者の数は現在378の事業者の協力をいただいている。

山浦議員：今後見守りの地域住民や事業者を増やしていかないといけないと思うが、その取組はどのようにしているのか。

上島高齢・障害支援課長：少しでも多くの事業者に参加していただきたいので、年2回の連絡会等を通じてより多くのいろいろな事業者に参加してもらえるような環境を作っていきたいと考えている。

山浦議員：見守りネットワークは、戸塚区では非常に評判がよくて協力していただいている方が非常に多いと聞いているので、地域の差が出ないように戸塚の持っているノウハウをほかの区にも教えてあげて区の間でサービスの差が出ないように取り上げてほしい。

坂本議員：P19「平成28年度個性ある区づくり推進費 戸塚区執行状況説明書」について、執行率をみると年度の途中なので執行率が少ないのは仕方がないが、「安全を実感できるまちづくり」や「活気に満ちた魅力あふれるまちづくり」の執行率が非常に低い。最終的には年度末には、計画を実行すれば100%まで持っていけるとみてよいのか。

福島総務課長：7月末現在の執行率が60.5%ですが、年度末には100%を目指している。

坂本議員：ぜひしっかりと計画に沿って進めてほしい。それぞれの項目は非常に大切だと思う。資料の見せ方にもよるが、済んでいるものと執行が終わっていないものが一目でみわけることができる形での資料作りを検討してほしい。

防災・区民マップやウォーキングマップなどさまざまな冊子などがあるが、街の観光案内板にあるようなQRコードを使ってデータをとれるようにして誘導することもあるが、区で作成した様々な資料やマップをデータ化する取組は検討していないのか。

嘉代福祉保健課長：健康ウォーキングマップは区のホームページに載せていて、ホームページの中からはいつでもデータを取り出せるようにしている。

坂本議員：区が作成している様々な資料やマップなどを見て、すぐにデータを取り出せるようにQRコードを付ければ、携帯電話やスマートフォンからその場ですぐにデータを手元で見られて、さらにグーグルマップなどと連動させれば、街を歩きやすいようになるなど、様々な連携が取れると思う。ICT技術なども視野に入れながら作ってくれるとありがたい。防災・区民マップなどは非常によい情報が載っているので各家庭に1冊あると思うが、これだけ大きい判となるとなかなか開いて閉じてということは大変だ。こういったことを含めてデータ化する検討を進めてほしい。

全国都市緑化フェアについて、横浜市民だけではなく全国に発信する取組でもあり、しかも市民の方が興味を持っていただくことが大事で大前提だと思う。想定500万人の来場を見込んでいる中で、市民にご来場いただけるために、乗降客数の多さで市内2番目を誇る戸塚駅周辺でPRボードなどPRできる植栽があると非常に良いと感じている。戸塚駅の街のプランターだけでよいのかなと思う。多くの区民が来年3月から全国都市緑化フェアがあるんだということを認知して、来ていただくために、戸塚区としてどういったことができるのか。早めの検討をしてほしい。

P30「友好協定を生かした地域活性化事業」について、7月に下川町へ視察に行ったが非常に有意義な視察であった。協定を結んでいる下川町というところを認識することができた。残念なこととして、戸塚の森が、草が生え放題という感じだったので、森の管理の連携が必要かなと思った。この点についてはどうか。

寒河江区政推進課長：そういう話は聞いている。協定上の約束では下川町でやるという取組にはなっているが、今後対応を検討していきたい。

坂本議員：視察に行ったことをフェイスブックに載せたが、戸塚区と協定を結んでいるところが北海道にあったんだと初めて知った区民が多くいる。今度機会があれば行ってみたいという話もある。下川町を戸塚区としてPRすることも大切だと思うし、林業で成り立っている下川町の木材を使って区役所の中で一部木質化を図るようにすることは、戸塚区としてまさに個性ある区づくりにつながると思う。このことについてはどうか。

福島総務課長：区庁舎の木質化については、木材の不燃化という課題もあるので、どのような加工ができるのか技術的な方法を含めて検討をしていきたい。

鈴木議員：下川町との協定は、カーボンオフセットを含めてきちんと費用対応した方がよい。区民まつりなどのイベントのときの二酸化炭素の排出量に応じたオフセットとして、協定を根拠に下川町のクレジットを買

うということは、非常にインパクトがあることだと思う。

防災拠点に関して、深谷小学校と俣野小学校の合併が議案となっている。仮に議決されたとして来年4月以降俣野小学校の防災拠点としての位置づけはどうか。

また、各拠点は戸塚区のエリアを網羅する形になっている。実際その地域の人たちは運営委員会の中で誰でも使えるということになっているのか。たとえば、あるマンションの管理組合などが拠点の訓練には参加できませんという話があるのではないのか。実際の運営の中で拒んでいるケースもあるようだ。区役所としてどういうふうにとらえているのか。

福島課長：廃校となる小学校の防災拠点は、地域の意向も踏まえて存続してほしいと区からも要望している。マンションの管理組合等が防災拠点の訓練を拒まれるということについては、基本的にはエリアの中の拠点が受け入れることになっているので、おそらく個々の話し合いの中で行われているのではないかと思う。基本的に防災拠点は、防災計画の中にきちんと位置づけをしているわけなので、だれでも利用できることが大前提となっている。再度確認していきたいと思う。

鈴木議員：防災拠点を実際に運用した時に、拠点がいっぱいになっていたとしたら、やはり拒まれるということがあると思う。仮にそれでよいということであれば、別の形でなにがしかの公助として排除された人たちをどうにかしないといけない。拠点の対象エリアにある人は必ずその拠点で同等に取り扱われるということが保証されていないといけないと思う。調べてみてほしい。

岩崎議員：P30「区民に身近な広聴・相談事業」について、区民相談事業はどのようなことをやっているのか。

寒河江区政推進課長：区役所では5種類の専門相談を行っている。法律相談、公証相談、行政書士相談、交通事故相談、行政相談がある。各分野の専門家に来ていただいて相談を受け付けている。実績は、合計で628件ある。一番多いのは法律相談で27年度は532件あった。区役所に専門

の方が来てもらっているが解決まで相談できるのではなく、解決の糸口をつかんでいただくという性格のものだ。

岩崎議員：対象となる区民の数が多いので、相談に乗ることに限界があるのはボリュームの点ではしょうがない。

小さな村や町の場合、何か困ったことがあれば役場へ相談に行く、役場はそれを受け止めてこうした方がよいと相談に乗って対応してくれる。地方ではそういう存在だ。同じようにやれというのはなかなか難しいが、区民の側から見ると役所は敷居が高い。専門的な相談事に対しては専門家が答えて、日頃の生活の中でわからないこと困ったことをどうしたらいいのかを相談できる雰囲気、親しまれる区役所としてそういう要素が足りていないと思う。ぜひそういうことも心がけてほしいと思う。区長は、どう感じているか。

田雑区長：先ほど虐待の話が出ていたが、警察に相談するよりもまず児童相談所、児童相談所に相談するよりも区役所と、だんだん敷居が低くなっていくのが多くの相談で見られているのではないかと思う。まだまだ区役所へ行くのを楽しみにするよりは、区役所へ行かないといけないかと気が重い方もいると思うので、工夫していきたい。

伏見議員：P26「とつかの子育て応援ルーム『とことこ』運営事業」で、子育て情報の収集・提供、ホームページを活用した情報発信について、戸塚区は「まっぴい」という素晴らしい地図を作っているが、ホームページに載せてほしい。区役所や母子手帳に配布するときに渡していると思うが、どうしても敷居が高いと思うお母さん方やなかなか外に出られない方もいるので、手に取りやすいような工夫、産科や歯科の検診時に配るなど、渡し方や情報の発信の仕方を工夫してほしい。

岩井こども家庭支援課長：ホームページからダウンロードする方法は、今後実現に向けて調整したい。また、その他の情報発信については検討していきたい。

伏見議員：P24「がんについて考えよう」について、7月29日に行われた講演会を夜に開催したということについては、どのような考えで夜の開

	<p>催としたのか。</p> <p>嘉代福祉保健課長：できるだけ多くの方に参加していただきたいということから夜の開催とした。</p> <p>伏見議員：やはり大変多くの方が仕事を持っているなかで、「この時間の開催でよかった。」「この時間でないと来られなかった。」という声を多く聞いた。夜の開催は難しかったと思うが、皆さん山田邦子さんのお話を伺って笑顔で帰られたということで、素晴らしい講演会だと思う。乳がんは女性特有の病気だが、大変多くなってきているなかで大変貴重な講演会だったと感じている。こういった企画をいろいろ考えていただければと思う。</p> <p> P8「親子のクッキングと歯みがきレッスン」で、歯科の医師は男性が多いのか女性が多いのか。女性の先生だと話がききやすかったということもあったので、できれば女性の先生にこういった機会を持っていただきたいと感じた。</p> <p>嘉代福祉保健課長：男性・女性は半分くらい。いただいたご意見を踏まえて、検討していきたい。</p>
備 考	